

えひめいきもの応援キッズレポート （提出用）

名前 なまえ 青木 康太郎

作成日 さくせいび 11月25日

1. 選んだ生きもの （名前）

※写真やスケッチがある場合は、このレポートと一緒に提出してください。

種名 しゅめい ハッコウトンボ

学名 がくめい *Nannophya Pygmaea Rambur*

愛媛県レッドデータブックの категория えひめけん 絶滅危惧1類 (CR+EN)

2. 選んだ理由 （調べようと思ったきっかけ）

大きさが五円玉ぐらいと聞いて、日本最小とめずらしい生き物が近くにいると分かったので、調べようと思いました。

学校のみんなとか全然知らないそうなので、教えてあげようと思い選びました。

日本では、本州、四国、九州ぐらいにしかいない、絶滅危惧とされているので、きょうなものです。

だから、とても気になったのが理由です。

3. 選んだ生きものの特徴

予想していたこと よそう

小さかったら、大きいものに食べられるから、いっぱい食べれば残らないの？ はないのか？ 残ったということは、なにがしらの理由があるのか？

調べてみて分かったこと しら

保護活動の成果で、2010年に150匹だったのが、100匹になった。夏に水やりをして、かあかないし、せにしたり、大型のトンボを別な所へ運んだりした。

4. 各パートナーズ施設へ行って、どうやって調べたのか

愛媛県生物多様性センター 8/10 中川生物大発見、8/16 クジゴロの仲間の観察、8/25 楠河の生き物めぐりに参加
愛媛県総合科学博物館

愛媛県立とべ動物園

面河山岳博物館

虹の森公園 おさかな館

行かなかった。

5. 聞いたり、調べたりした内容、分かったこと (結果)

(例1) 生きものがある環境 (例2) 数が少なくなった理由

生きものがある環境

4月下旬から9月月初旬に出玉見、丘陵地のミカキワサ、モウセンゴケなどが繁茂する湿地に生息する。水質は弱酸性、水深はごく浅く泥が堆積し、おぼかな流れがある湿地を好む。

実際に、行ってみて、草がいつおおい生えて、板でふまないともしこいまして。日当たりもよかったです。

25度になると出はじめ、6月は産卵が見えるそうです。

愛媛には、この保護区にいます。

写真をとったけど小さすぎて

ヒントがあわす。残念だった。

6. 今後、どんな生きものについて学んでみたいか

ハチョウトンボは、たくさんいるという6月に行ってみたい。

ゲンゴロウは南予の穂土せに機会があれば行ってみたい。

おくませ川の相月田の稲刈りに行くと

アカライモリ1匹とトノサマガエル1匹を見た。大生院の稲刈り前の田んぼ

でもトノサマガエル1匹とアカライモリ1匹を見た。

行った先で1匹ずつしか見ないのは、どういうおけたらう。

時期的なものか数が少ないのかどちらたらう。

7. その他、参考にしたもの

大生院科学博物館の図書館にあった
回覧で調べた



第33回 わたしの自然観察路コンクール



団体の部 優香 ことエコクラブ「レインボーキッズ」





九島につくとまず歩いてニホンカワウソが保たされた場所を目指した。出会った2人に道を聞いた。1回目と2回目で見えた場所を教えた。案内板はない。片道40~50分歩いた。次は、レンタサイクルを計画したい。

ニホンカワウソ最後の地へ

8月7日なんよ冒険島に参加した。チャーター船で午前は「わくわく九島」イベント中の九島へ行き午後は沖の島に上陸、無人島を探検し、途中段畑や洞穴の景色を楽しんだ。九島を見ることが目的だった。

いよしの十田予博
九島と沖の島新聞

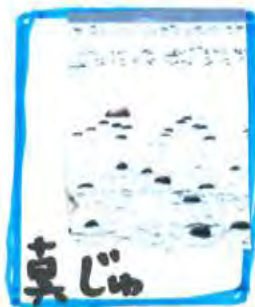
青木康太郎
2号



じゃがいも畑。宇和島側の陸を海から見た。60段。まわが夕涼み会で段畑ヒコウのあかりをつけていきたそう。

半農半漁
のがごり

ハマチの養殖は人がエサをやりに来るそう。



リアス式海岸
養殖よく盛ん



クルーズは意外と長く、波しぶきをかぶり、とばされそうだった。もちいや広場で買って帰ったカキは大きく、身がっまりおいしさは格別。



カメラにて
根もとの部分を食べるそう。手ではびくとも動かなかった。



保ご活動をしている看板がある
あまいいいこおい

天然記念物ハマユウ
が一面に咲く沖の島



カエルつり初体験

中川の生き物新聞

青木康太郎

4号

中川公民館に集まった小4と小5の5人に、地域の人がオカワさん、生物多様性センターの先生方が一緒に田んぼや川を回って解説してくれました。虫とりは久しぶりです。

エノコロ草をとり、実を1つだけ残してつりおに。動かして虫に見せる。ヌマガエル10匹、アマガエレ2匹、トノサマガエルが1匹いた。大きなあみで、イナゴやシジミョウバツタ、ウスバキトンボ、ツバメシジミをつかまえた。カエルつりが楽しかった。

たのかのヤンボタニシの水路にジ
た河原の石にもくっついていてびっくりに行っ

田
おそろ
外来種
し

カワムツ 1匹
タカハ 1匹
ギンナ 1匹

ワンド
水カマキリ (きたない水虫)
おしりの先いきをする

しかけて調査

ヘビトンボ (きたない水虫)
ツオニヤシマ (ヤシマ水虫)
ドンコ

カゲロウ (石のうら)
ヨシボリ
中川にはいない

ハゴトボ
死サナエ
ギンヤシマ

同じ生き物がいて、田、ワンド、川がなくなっていることが分かった。トンボ、カエル、バッタは田と川で種類がちがった。

楠河の生きものめぐり新聞

青木康太郎

7号



この日もサワサさんが教えてくれた

8月25日、楠河
公民館に集まった
小学生6名の8名
が、生物多様性セ
ンターの先生方と
一緒に、川、わき
水、し。地の生き
ものを観察した。
ハッチョウトンボ
3匹、マキビシ、
ドブ貝など珍しい
ものが見れた。

ハッチョウトンボは
日本最小
はち 15mm
体長 2cm
5月下旬～10月初め
日あたりのよいしせ
愛媛県にはこの保
護区にいるだけ。



保護活動の成果
で、2010年に150匹だ
ったのが、今は1000
匹になった。えせ
をやれるわけがな
いので、夏に水や
りをしてかわかな
いし、地にしたり、
大型のトンボを別
な所へ運んだとし
てヤゴを育てた。



2016/08/25

← 赤テープの木を切り
日あたりよく

25度になると出
はじめ、6月は産
卵が見える。



し、地はおもしろい

1960年代に護岸工
事などで、すべて
の生き物がリセッ
トされたそう。保
護区は200年からだ
けれど、近藤さん
はずっとその前か
ら水を運んで生息
地を残し、今も観
察をしてどんな環
境がすまいか考え
てきた。

ニ枚貝
ドブ貝
ハ
じの実はす。
心者のマキビシに使っていた？
らおにろがっていた。



水そうからシャーレへは手で成虫にかまれたがそまじたくはなかつた。拡大鏡を使いガムシと比かく観察が本格的で楽しかった。

えひめ生きもの応援キッズの学習会が、8月16日生物多様性センターであり、山内研究室とゲンゴロウの仲間の観察をした。コガタノゲンゴロウは愛媛県では絶滅きぐ工類。山水を利用して農薬のえいきょうが少なかつた愛南町に見られる。

観察で知る暮らしかた

ゲンゴロウ

新聞

青木 康太郎

8号

オスメスの見分け方

オスは前足にキツバがある。

成虫の大きさ

幼虫の間に食べた餌の量で決まらばいい

	えさ	呼吸	泳ぎ	後ろ足	触角	
幼虫	水生のヤゴ、藻類		もぐる得意		ひも	コガタノゲンゴロウ
成虫	魚の内臓		水面近く	毛が生えているおれのかたち		VS
幼虫	キバ、ヤゴ、肉食	おなかに空気をためる	不得意	毛が生えてない	ふくらんで	ガムシ
成虫	水中の落葉、雑食			クワカク風	いる	

つれい を た 家 か
 けいて お け で コ
 なな 大 っ び イ シ
 い 水 シ た ブ リ マ
 と を ョ ラ リ コ が
 い 人 ツ 朝 の を ゲ
 け が ク 死 肉 や ン
 な 気 ン ぞ っ て ゴ
 い を き て う い ロ
 ウ



生きたコオロキを
かみ、消化液でとめす

